

## ハッ場ダム住民訴訟通信-76

2012年3月25日発行

### ハッ場ダム治水検証のマヤカン発覚。

#### 実際はハッ場ダムは不要。百歩譲っても河道掘削で十分だった。

3月9日、塩川鉄也衆議院議員(共産)の「ハッ場ダムの治水効果の検証に関する質問主意書」に対する政府答弁書が出されました。この質問主意書と答弁書によって、ハッ場ダムの治水の検証が極めて恣意的に行われ、意図的に代替案を切り捨てていたことが明らかになりました。

先ず国交省はハッ場ダムの洪水調節効果を上げるために次のような仕掛けを施しました。

**表-1 ハッ場ダムの洪水調節効果を上げる仕掛け【基準点:八斗島】**

	2006年河川整備計画メニュー		今回の検証検討案
治水安全度 (1/50=50年に1度の洪水)	1/50	→	1/70~1/80
目標流量 (洪水調節施設が無い場合の洪水流量)	15,000 トン/秒	→	17,000 トン/秒
ダム等による洪水調節量	2,000 トン/秒	→	3,000 トン/秒
河道対応流量 (ダムなどで洪水調節後の流量)	13,000 トン/秒	→	14,000 トン/秒
ハッ場ダムの洪水調節効果	600 トン/秒	→	1,176 トン/秒

このようにハッ場ダムの洪水調節効果を引き上げた上で、「カスリーン台風など八つの洪水を洪水調節施設がない状態で八斗島地点流量が17,000 m<sup>3</sup>/秒となるように雨量を変更し、すべての場合にハッ場ダムが有効である」とした上で、次の代替案とのコスト比較をしました。

**表-2 ハッ場ダムと四つの治水代替案との費用比較**

1 ハッ場ダム残事業費(治水分)	約 700 億円 (支出済分を含約 2,400 億円)
2 河道掘削	約 1,700 億円
3 渡良瀬遊水地越流堤改築+河道掘削	約 1,800 億円
4 利根川直轄区間上流部新規遊水地+河道掘削	約 2,000 億円
5 流域対策(宅地かさ上げ等)+河道掘削	約 1,700 億円

ところが、代替案との比較では下表の八つの洪水のうち、工事規模が最大で費用が最も高くなる昭和34年8月洪水のみを対象としていたことが明らかになりました。詳細に見れば、代替案が必要なのは8洪水のうち2洪水に過ぎません。その他の6洪水はマイナスあるいはかなり小さい値であり、ハッ場ダムも代替案そのものも実は不要だったのです。

**表-3 ハッ場ダムの代替案を導き出した計算データ**      **ハッ場ダムがない場合(単位:トン/秒)**

対象洪水	洪水調節施設無し (A)	河道目標流量 (B)	洪水調節施設完 (C)	上流洪水調節流量 (D=A-C)	ハッ場ダム代替案必要流量 (E=C-B)
S22.9.13	17,000	14,000	13,530	3,470	-470
S23.9.14	17,000	14,000	13,480	3,520	-520
S24.8.30	17,000	14,000	15,170	1,830	1,170 (ハッ場ダムで調整)
S33.9.16	17,000	14,000	12,850	4,150	-1,150
<b>S34.8.12</b>	<b>17,000</b>	<b>14,000</b>	<b>15,760</b>	<b>1,240</b>	<b>1,760(ハッ場ダムで調整)</b>
S57.7.31	17,000	14,000	13,980	3,020	-20
S57.9.10	17,000	14,000	14,240	2,760	240
H10.9.14	17,000	14,000	13,870	3,130	-130
<b>平均</b>	<b>17,000</b>	<b>14,000</b>	<b>14,110</b>	<b>2,890</b>	<b>110</b>

※洪水施設無し(A)=実際の洪水流量を目標流量17,000に変更した計算上の流量    ※洪水施設完(C)=引き伸ばし計算による洪水調節施設(ハッ場ダムを除く)完成後の流量    ※代替案必要流量のマイナスをゼロとした平均は396。

## ハッ場ダムを必要とする洪水は 280 年～320 年に一回。という怪。

国交省はハッ場ダム検証にあたって、河川整備計画相当の洪水流量として 70 年～80 年に 1 回の大洪水＝17,000 トン/秒を目標流量としました。言いかえれば、ハッ場ダムを必要とする洪水が起きる確率は 70 年～80 年に 1 回としているのです。ところが対象とした 8 パターンの大洪水のうち 2 パターンしかハッ場ダムを必要としないのですから、70 年～80 年に 1 回の確率はおよそ 4 分の一になり、280 年～320 年に 1 回というバカバカしいものになります。

## 代替案を採用しても、ハッ場ダムの約半分の 383 億円で済んだはず。

表-3 でハッ場ダム代替案の必要流量がマイナスになった 5 洪水はその値をゼロとしても、8 洪水の対応必要流量の平均は 396 トンに過ぎません。この平均値に対する代替案ならば、その費用は国交省の示した費用よりはるかに少額となります。

- ・表-1 の代替案のうち費用の最少案は河道掘削の 1,700 億円。
- ・代替案の対応必要流量は昭和 34 年洪水の 1,760 トン。
- ・従って、代替案の費用が対応必要量に比例すると仮定すれば
- ・8 洪水の平均 396 トンに対応するための河道掘削の費用は
- ・1,700 億円×(396 トン÷1,760 トン)＝383 億円

ハッ場ダムの残事業費は 700 億円。河道掘削だとその半額ですむのです。何と言う無駄遣いでしょう。

## 利根川流域市民委員会が再スタートします。市民力で「脱ダムの風」を関東平野に。

昨年の暮れ、民主党政権はハッ場ダムの再開を決定し、本体工事費を平成 24 年度予算に計上しました。ところが、私たち市民、そして民主党内からも非難の火の手が上がり、野田首相は本体工事の予算執行は次の 2 条件をクリアするまでは凍結すると言明しました。

### 1 利根川水系河川整備計画の策定とその目標流量の検証

### 2 「ダム中止後の生活再建支援法」の通常国会への提出

このうち、2 の生活支援法案は衆議院に提出され、審議を待つ状況にあります。残るは利根川水系河川整備計画の策定になります。実は、この整備計画は 2006 年～2008 年にかけて策定作業が行われましたが、原案策定に至る前に理由不明のまま中断されました。※当時の検討の俎上にのった河川整備計画メニューは表-1 をご参照ください。

私たちの利根川流域市民委員会はその時に発足しました。茨城県からも茨城の会をはじめ幾つかの市民団体・市民の方々が参加され、公聴会での発言(18 会場・119 人)、パブリックコメント提出(313 件)など活発に活動しました。

## 共同代表に濱田篤信さん就任。茨城は積極的に参加します。

新・利根川流域市民委員会は共同代表に濱田篤信さんを加え、佐野郷美さん(利根川・江戸川ネットワーク)、嶋津暉之さんの 3 人による強力な体制をつくりました。先ず目指すところは、きちんとした利根川河川整備計画を策定させることです。

### ① 関係住民の意見を反映させる方法の確立。

公聴会、パブコメの意見を聞き置くだけでなく、公開の場で議論の形をもって策定にあたる。

### ② 利根川の有識者会議の民主的な委員選定と運営。

いわゆる河川村の有識者だけでなく、反対派の学者・専門家を含めた委員の選定など。

### ③ ゼロからの河川整備計画の策定作業。

表-1 のように整備計画の枠組みは変えられています。策定はゼロからが基本になります。

ハッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表:近藤欣子 濱田篤信 柏村忠志

事務局:神原禮二 〒302-0023 取手市白山 1-8-5 携帯:090-4527-7768